

がんばっている当事者家族のサポート～発達障害のあるわが子と歩んだ経験から～

講師:橋口亜希子氏(橋口亜希子個人事務所代表/UD コンサルタント)

日時・形式:2024 年 2 月 4 日(日)9時～12時・ハイフレックス形式(対面/Zoom)

第 5 回研修会は、発達障害のある子の母であり、同じ境遇の子・家族の支援活動を 20 年以上続けている橋口亜希子先生をお迎えし、発達障害のある子を育てる不安や悩みにどう向き合い、どう対処してきたか、自らの体験や海外の事例を通して研修いただきました。

●**発達障害の困りごと** はじめに、発達障害に関する知識についておさらいしたのち、発達障害のある子の母親という「当事者性を経験している」立場から、発達障害のある子どもやその家族が直面する困りごとについてお話いただきました。発達障害のある子ども達の困りごとに加え、「困っているのは子どもだけじゃない!」というメッセージのもと、親として苦労したことを力説いただき、保護者の方の想いを理解することができました。



↑ 研修会の様子(対面会場)

●**発達障害と「インクルーシブ教育」** 不登校児童生徒の増加を問題提起したうえで、学校に行けない児童生徒に問題があるのではなく、児童生徒が行けない従来の学校システムに問題があることに社会が気づき、個々のニーズに応じた学びの場を選択できることが重要だと力説されました。発達障害における「アドボカシー」「合理的配慮」の課題をふまえ、意志の「表明」「決定」支援が必要であると解説されました。

●**合理的配慮と UD** 最後に、困りごとの背景を理解することの重要性を解説いただいたのち、実際の支援についてご紹介いただきました。橋口先生が取り組まれた「センサリーマップ作り」や、男女共用トイレにおける「アイキャッチアート」など様々な事例をご紹介いただき、発達障害のある子どもや家族が、どういった社会であれば過ごしやすいのか、具体的にイメージすることができました。

当事者家族のサポートについて、実体験をふまえながら様々な角度からお話いただき、自身の支援をふりかえる良い機会となりました。参加者の方とのディスカッションも交えながら、充実した 3 時間の研修でした。橋口先生、本当にありがとうございました。

参加者の声 発達障害という言葉自体から考え直すことができた。教員として子どもたちや保護者の方と関わる中で、自分の困りごと、子どもの困りごと、保護者の困りごとを混同していたことがあったと気づいた。まずは整理して考え、何が子どもにとってできるのかを考えていくようにしたいと思った。

次回研修会(第 6 回)

2024 年 3 月 17 日(日)9 時～12 時

「大阪府立水都国際中学校・高等学校の実践
～一人ひとりの主体性に寄り添い、多様性を活かす
学びの支援～」

講師:ジェロマイヤ ソーマ先生・藤田 勝如先生